



社会問題や地域課題などをテーマにした  
松山東高の研究成果発表会

## 地域との協働集大成

### 松山東高生 研究成果を発表

文部科学省から「地域との協働による高校教育改革推進事業（グローバル型）」の指定を受けている松山東高（松山市持田町2丁目）でこのほど、1、2年生が研究成果発表会を開き、地域課題や社会問題と向き合った1年間の集大成を披露した。

2年生は医療、国際、食品・工学、地域の4分野に分かれてシンポジウムを開催。国連が掲げる持続可能な開発目標（SDGs）や地域農業などの研究テーマについて発表した。松山大薬学部の武智

研志准教授が外部講師を務めたチームでは、

代表の古手川明里さん（16）が受動喫煙の影響を報告。同級生54人の尿を検体にニコチンの代謝物「コチニン」濃度を測定した結果、全員が正常値だったとし「アンケートでは約3割が受動喫煙にさらされていると答えたが、影響を受けている人はいなかった」と説明した。

1年生は個人やグループが、同校卒業生の作家大江健三郎さんについての研究などをポスターにまとめて発表した。

同校は2019年度から3年間、グローバル型の指定校となり、週1回のペースで事業に関する授業を実施。県内の産官学からもサ

【紙面編集】上申祐司

ポートを受けている。発表会は10日に開催した。（渡部竜太郎）